



集落で新たな取組を行うためには、集落の意識を変えていかなければなりません。そのためには、集落で農業や集落活動の現状と課題を共通認識し、目指す方向の検討を進め、合意形成を図っていく必要があります。その時に、集落リーダーの存在とリーダーシップが欠かせません。

集落における実践までの具体的な手順、およびリーダーの役割、進め方のポイントについて示します。

1 実践までの流れ

現状把握

集落の農業、集落活動の現状を把握する



課題整理

集落の農業、集落活動の解決すべき課題を整理し、可能性を探る



目指す姿を描く

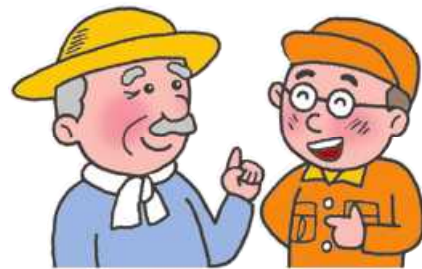
集落の農業の持続・発展と活力ある農村に向けてどうあるべきか、そして何をすべきか



集落での合意



実践



2 現状把握、課題整理

- 集落の現状や課題を具体的に整理して、みんなで共通理解を深めます。
- 集落の農家の見通しと集落の活動状況の2つの面から整理します。
- 必要に応じて、関係機関・団体に課題の整理の仕方を相談します。
- 「人・農地プラン」や世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の「地域資源保全管理構想」の検討と併せて行うと効果的です。

(1) 集落の農業の担い手

ア 農家の現状把握と将来予測

- ・集落の農家の現状と5年後、10年後の見通しを整理します。
- ・認定農業者、法人、集落営農組織や入り作者も含めて整理します。
- ・年齢、後継者の有無、規模拡大の意向などをもとに整理します。
- ・「集落の農家の5年後、10年後整理シート」（資料編P115）を活用します。

集落の農家の5年後、10年後の見通し 整理シート(抜粋)

集 落 名	
水田面積(①)	ha

分 類	氏 名	年 齢	集 落 内・外	後継者有無	認定 農業者区 分	経営耕 地面積 (ha)	集落での作付の現状&希望			集落で耕作を行う上での 要望、問題点など
							現在の 耕作面 積(ha)	5年後の 耕作予定 面積	10年後 の耕作予 定面積	
既 存 耕作者				(あり・なし・未定)	1					
				(あり・なし・未定)						
				(あり・なし・未定)						
	小計(②)	-		-	-	-	0	0	0	
当該集 落への 作付意 向があ る担い 手				(あり・なし・未定)						
				(あり・なし・未定)						
	小計(③)	-		-	-	-	0	0	0	

イ 課題整理

- ・ 集落の農家の現状と5年後、10年後の見通しの整理結果を踏まえ、集落の農業の将来の担い手の可能性を探ります。
- ・ 「人・農地プラン」の作成・見直し作業も同時に進めます。

① 耕作できなくなる可能性の農地

5年後、10年後に耕作できなくなる農家が何人いて、耕作できなくなる可能性の農地は何haあるか、ほ場地図で整理します。

(例)

◇5年以内に耕作できなくなる可能性の農家○名、○ha

◇10年以内に耕作できなくなる可能性の農家○名、○ha

⇒何もしなければ、この面積が耕作放棄地になる可能性があります。

耕作する担い手の見込みはあるのか、検討しましょう。

② 今後の集落農業を中心に担っていくのは誰か？

集落の農業を担う可能性のある人をリストアップして検討します。必要に応じて、若者や女性の意向を把握するために、アンケートを実施します。

(例)

・ 個別経営がある場合

◇認定農業者のAさんは、○○歳で、あと○年以上は問題ない。

◇Bさんは後継者がいて、規模拡大意欲もある。

◇隣の集落から耕作にきているCさんは、さらに拡大する見込み。

◇認定農業者のDさんは、規模縮小の見込み。

・ 集落営農組織がある場合

◇集落営農組織には若いオペレーターもおり、これからも問題ない。

◇集落に若者や女性がいて、集落営農に関わってくれるかもしれない。

◇集落営農組織の役員の後継者もなく、継続は難しい。

・ 担い手がいない場合

◇Eさんの息子が農業をやるらしい。

◇集落に40代、50代の兼業農家が何人もいるから、集落営農ができるかもしれない。

◇隣の集落のFさんが、来てくれるかもしれない。

◇集落内では担い手の見込みがない。集落で農地をまとめるなどの努力をしたら、JA出資法人が作業に来てくれるかもしれない。

③ 担い手の経営面からも考えてみましょう

効率的・安定的な水田経営の目安は表のとおりです。担い手の現状の面積や将来の見通しの面積と、目安の面積を比較して、課題を整理します。

(例)

- ◇認定農業者のAさんは、今10haだけど、あと20haは必要では？
- ◇集落営農組織は麦・大豆だけだが、水稻も含めて30haは必要では？
- ◇集落の面積は20haしかないので、複合経営が必要か？

表 効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標※

(農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針 平成26年6月 滋賀県)

営農類型	経営規模
個別経営 水田作	水田 27ha (水稻、麦、大豆)
法人経営 水田作	水田 60ha (水稻、麦、大豆)
集落営農経営 水田作	水田 30ha (水稻、麦、大豆)
露地野菜・水稻複合経営	水田 18ha (水稻、麦、大豆、露地野菜)

※ 以下の所得水準及び労働時間を目標とする経営類型を示している。

年間農業所得 主たる従事者1人あたり概ね 500万円

年間総労働時間 主たる従事者1人あたり概ね 2,000時間

(注) 集落営農経営における所得は、構成員の労賃分を含んでいる。



(2) 集 落 の 活 動

ア 集 落 活 動 の 点 検

- ・以下の5つの項目について集落活動を点検します。
- ・「集落の活力チェックシート」（資料編P117）を用います。

(点検項目)

- ◇農業組合などの機能は継続できるか？
- ◇集落の農地の利用調整はできているか？
- ◇水路や農道を維持管理する共同活動で困っていることは？
- ◇祭りや集落行事は続けていけるか？
- ◇地域で活用できる資源（人材、特産物、景観等）はないか？

集落の活力チェックシート（抜粋）

評価指標	評価点(点)				点数
	0	1	2	3	
◆農業組合等の組織					
1 農業・農村に関する組織の構成 (農業組合など)	組合がない	耕作農家のみで構成	耕作農家と土地持ち非農家で構成	耕作農家、土地持ち非農家に 加え非農家も参画	
2 組織の役員	組合がなく、役員はいない	耕作農家が役員	耕作農家と土地持ち非農家 が役員をしている	役員に若者や女性が登用され ている	
◆農地の利用調整					
7 人・農地プランの策定	策定していない	策定に向けた話し合いをした ができていない	現状維持の内容で策定済み	農家や入作者の意向を踏まえて 作成している	
8 土地持ち非農家からの相談窓口	窓口が必要と考えていない	必要と考えるが、窓口は設置 していない	窓口を設置しているが、周知 していない	既に、窓口が最大限に利用さ れている	
◆水路や農道を維持管理する共同活動					
15 世代をつなぐ農村まるごと保全向上 対策の取組	取り組んでいない	話し合ったができなかった、 または途中でやめた	取組を検討中	取り組んでいる	
16 農道・用排水路法面の草刈り	実施していない	耕作者個々に任せている状態	集落の共同活動として年に 1回～数回実施	複数回の活動に非農家や若者 も参画している	
◆農業を通じた地域住民の交流					
22 土地持ち非農家の農用地、農道や用排 水路等に対する関わり意識	意識はない	徐々に意識が薄れつつある	徐々に意識が高まっている	以前から、意識が根付いて いる	
23 農業イベントの開催 (例えば、収穫祭など)	以前からない	以前はあったが、今はない	最近、始まった	以前から定着している	
◆地域資源を活用した農村の活性化					
29 誇れる地域資源（有無） (農産物、景観、環境、伝統行事など)	以前からない	以前はあったが、今はない	新たに出てきた	以前からある	
30 地域資源の活用 (例えば、6次産業化の取組など)	以前からない	以前はあったが、今はない	最近、始まった	以前から定着している	

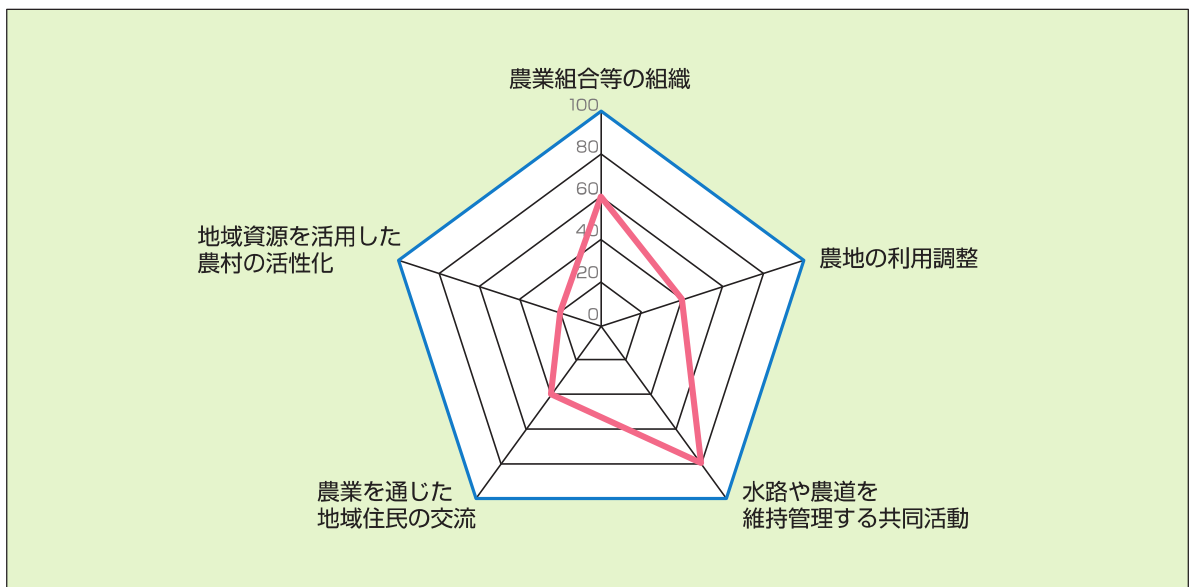
イ 課題整理

- ・ 集落活動の点検結果を踏まえ、「このままで集落の活力は維持できるか」という視点で、集落の活動の課題の整理を行うとともに、将来の可能性を探ります。

① 点検結果のレーダーチャート化

- ・ 集落の活力チェックシートの点数を、項目ごとに合計し、レーダーチャートに落とします。
- ・ 五角形に近いほど、集落の活力は大きいと言えます。点数が低い項目は、改善の必要がある項目です。

(作成例)



② 強み、弱み(問題点)の整理

- ・ 各項目について、強み、弱み(問題点)を整理し、集落の活性化に向けた可能性を検討します。必要に応じてアンケートを実施します。

(例)

	強み	弱み(問題点)	将来の可能性
農業組合などの組織	土地持ち非農家も役員をしている	話合いの回数が少ない	農業組合を核に話合いを進めることはできる
農地の利用調整	ブロックローテーションをしている	農地の貸借の調整までしていない	集落で農地の利用調整をする力はある
水路や農道を維持管理する共同活動	共同活動はしている	共同活動の参加者が減少している	地域住民を巻き込んだ活動にできるかもしれない
農業を通じた地域住民の交流	祭りは続けている。集落に若者や女性はいる	若者や女性の農業への関わりがない	子どもが参加する行事をすれば、盛り上がるかもしれない
地域資源の活用	集落には、誇れる〇〇〇がある	その宝を活用しようという人はいない	地域の宝を活かして何かできるかもしれない

3 目指す姿を描く

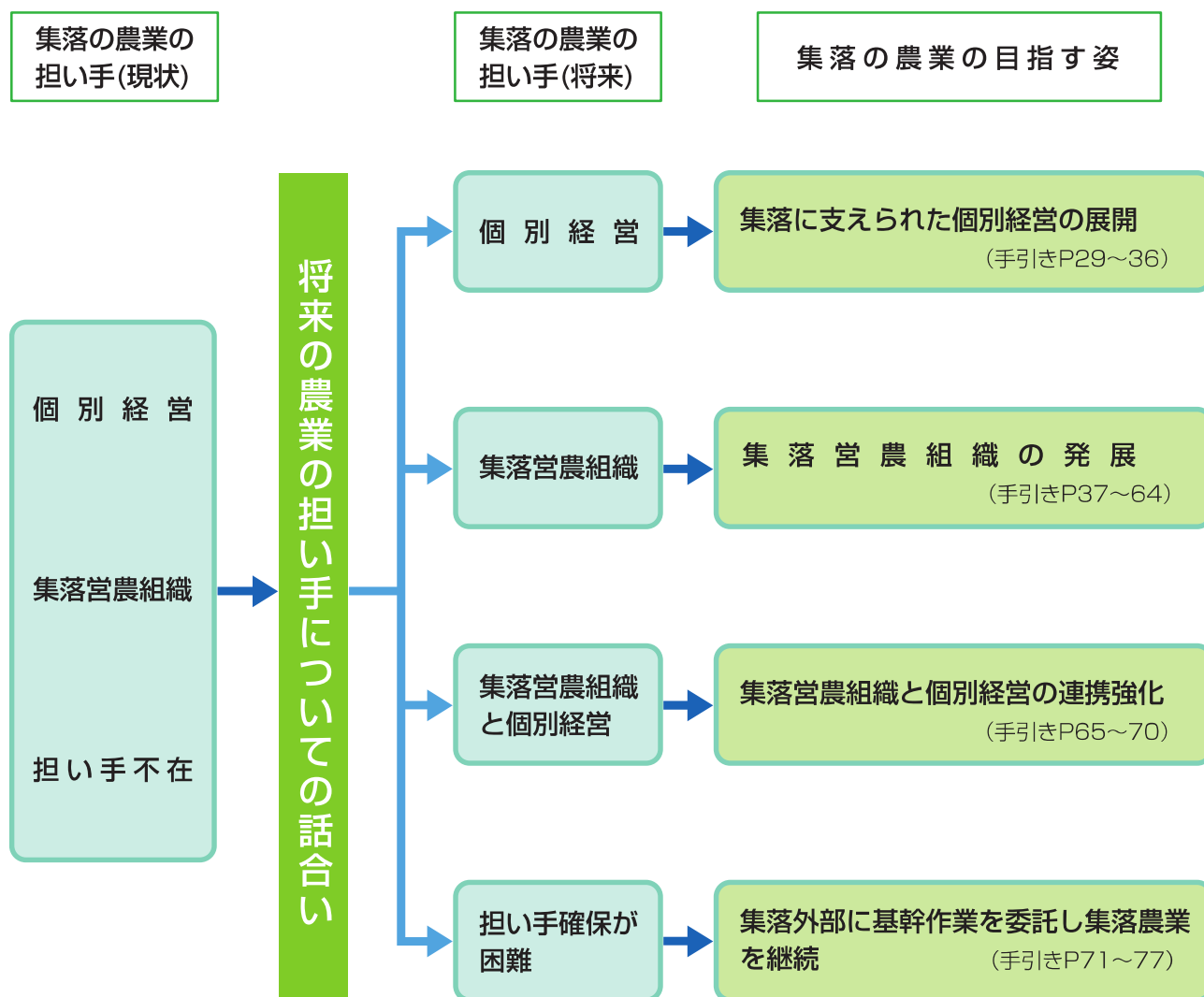
- 課題整理を踏まえ、集落の農業の将来方向と活力ある農村に向けた将来方向を一体的に考えます。
- 「第1章 4 目指す姿の具体例(P9~14)」を参考に、自分の集落にあてはめて考えてみます。
- 目指す方向に関係する「第3章 実践のための手引き」を参考にします。

(1) 集落の農業の持続・発展に向けて

集落の担い手や農家の現状、今後の担い手の見通しを踏まえつつ、現状を一度リセットして、10年先くらいを見通して、「集落の農業の将来の担い手は誰か？」を考えます。

次に、「その担い手の経営の安定化のために集落として何ができるか？」など、集落の将来の担い手の方向に応じた農業の目指す姿を描き、その実現に向けて実践することを検討しましょう。

(検討のイメージ)



(2) 活力ある農村に向けて

集落活動の課題整理を踏まえ、「担い手の将来方向」を考慮しながら、活力ある農村に向けた目指す姿を描き、その実現に向けて実践することを検討しましょう。

- ① 農業・農村を維持する上で、農業組合などの調整機能は不可欠です。集落の調整機能の継続・強化を図りましょう。

農業組合などの組織の継続・強化

(手引きP79~80)

- ② 集落による農地の利用調整機能を高めましょう。特に、農業の担い手が個別経営の場合は、必須の取組です。

集落による農地の利用調整

(手引きP81~82)

- ③ 集落の大切な財産である水路、農道などを、地域住民の力で維持保全しましょう。

地域住民の参加による水路や農道を維持管理する共同活動

(手引きP83~92)

- ④ 集落の伝統文化や行事を持続可能な形で継承し、農業体験など生産者と消費者が地域で交流できる場をつくり、集落の人々のコミュニケーションを高めましょう。

農業を通じた地域住民の交流

(手引きP93~97)

- ⑤ 集落の人材や特産物、景観などの地域資源を活かして、特産物の生産や都市農村交流に取り組めないか、検討しましょう。

地域資源を活用した農村の活性化

(手引きP98~107)



目指す姿の検討項目（例）

理念・目的（何のために）

（例）

- ・ 地域あつての農業 農業あつての地域
- ・ 集落の農地は集落で守る
- ・ 子供の笑い声が絶えない村づくり

集落の農業の持続・発展に向けて

（例）

- ・ 個別経営が規模拡大し、どこにも負けない効率的な経営ができるように、集落で農地を面的集積し、水路や農道を維持管理する共同活動を行い、個別経営を支えます。
- ・ 集落営農組織のオペレーターとして若者が活躍し、女性や高齢者が野菜作りや6次産業化に挑戦します。
- ・ 集落営農組織と個別経営が共存し、耕作する農地はすみ分け、個別経営は平日に集落営農のオペレーターに出る、集落の女性が個別経営の野菜作り作業を行うなどの補完関係を築きます。
- ・ 水田基幹作業を集落外部の担い手に委託し、日常管理は集落農家で行い、集落の農業を継続します。

活力ある農村に向けて

（例）

- ・ 担い手の田んぼで子供たちが農業体験を行い、担い手が作った農産物を地域住民が買います。
- ・ 集落の伝統行事を、子供の参加が増えるような工夫をして、続けます。
- ・ 集落外（特に近隣）に住む集落出身者が、草刈りや水路、農道管理に応援に戻ったり、子供連れで集落の行事に参加できる体制を作り、交流の輪を広げます。
- ・ 地域資源〇〇を特産物として、集落の女性や高齢者が生産し、直売所で販売します。古民家を改造して、農家民宿や農家レストランに挑戦します。

4 集落での合意形成

リーダーが中心となって、集落で合意形成を進める際のポイントを示します。目指す方向に応じて、関係する実践のための手引きも参考にしてください。。

① 目指す方向の役員会での合意

- 中心メンバーで内容や進め方の事前打合せを行い、意識統一します。
- 役員会で、必要性について理解されるまで検討します。

(留意点)

- ・中心メンバーの方向がまちまちだと役員会の議論は進みません。事前打合せの段階で認識を統一しておきます。
- ・中心メンバーはリーダーを応援します。
- ・役員会で反対意見が多かったり、賛否が並行すると、次回の協議が立ち消えになることが多いので、まず、次回の協議日程をしっかり決めます。
- ・優良事例からイメージをつかんでもらいます。
- ・関係機関・団体に出席を求める場合、事前に相談し、あくまで主役はリーダーであることを踏まえ、主体性を持って進めます。
- ・具体的な内容の検討を行う検討チームの設置までの合意を得ます。

② 検討チームの設置

- 具体的な内容を検討していくにあたっては、専門的に企画・検討を行う検討チームなどの体制づくりが大切です。
- 若者、女性、高齢者など集落内の様々な立場の人々の参画により、今までにないようなアイデアや発想を出してもらいましょう。

(留意点)

- ・あまり大きな組織体制にはしません。
- ・今後の役員体制などにも配慮して人選します。
- ・がんじがらめにせず、融通の効く部分を持たせておきます。
- ・女性や将来を担う若者の積極的な起用が大切です。女性や若者はそれぞれ1人では発言しづらいので、複数入ってもらうように配慮します。
- ・集落内にいくつもの組織が重ならないように注意します。

③ 試案の作成

○集落での何らかの取組が必要という段階まできたら、具体的な姿を示しながら議論していくことが必要です。

○活用できる施策について、関係機関・団体からアドバイスを得ます。

(留意点)

- ・試案は、タイミングよく出します。あまり急がず、何とかしなければならないという雰囲気
が醸成されてきた段階で作成します。
- ・検討チームで十分に詰め、想定される意見の対応を考えておきます。
- ・施策は活用するもので、事業の実施が目的にならないように注意します。

④ アンケート調査

○目的をはっきりします。

○質問事項を整理し、内容は分かりやすく簡単にします。

○結果は分かりやすくフィードバックします

(留意点)

- ・検討チームで、ある程度方向性を決めてからアンケートを行います。
- ・方向性もなく、とりあえずアンケートをとっても、効果が期待できません。
- ・アンケート例（資料編P120～123）を参考にします。

⑤ 先進事例視察

○先進地への見学は、集落の意識を高める上で、非常に効果があります。

○目的もなく、「まず見に行きましょう」では、逆に「こんなことはできない」と思われたりして、逆効果になることもあります。

(留意点)

- ・目指す姿に最も近いモデルを見学します。
- ・事前に相手先の実情を詳しく調べ、見習うべき点を明確にしておきます。
- ・見学先では、参加者に聞かせたい話を引き出すような質問をします。
- ・見学後はみんなの意識も高まっているので、あまり日をおかずに検討を進めます。

⑥ 集落での最終合意

○検討チームで作成した試案をもとに、役員会で案を仕上げます。

○役員会で案ができれば、総会で合意を取りつけます。

○内容によっては、大筋の案ができた段階で、一度大筋で合意を得て、具体的な案ができた段階で最終合意を取りつけます。

【参考】 集落リーダーの役割

集落リーダーとは、集落の意見をまとめ、集落を動かしていく中心的人物です。集落リーダーの存在なくしては、集落で新しいことに取り組むことはできません。まさに、集落が動くかどうかは、リーダーの行動力にかかっていると言えます。

(1) 集落リーダーとは

農業組合長がリーダーとなる場合、また、農業組合長が集落で話し合うきっかけを作り、リーダーは別の方がなる場合など、誰がリーダーとなって進めるかは、集落によって様々です。集落に合った形で、集落リーダーを中心に進められる体制を作ることが大切です。

(2) リーダーの3つの心得

リーダーは具体的にどんなことに注意を払わなければならないのか、特に大切なことを列挙します。

【その1】 リーダーの強い思い

- 集落にやる気を起こさせるのは、リーダーのやる気にかかっています。
- リーダーの気持ちが揺らいだりすると、不信感が生じてうまく進みません。
- リーダーは、我が集落の将来のためといった、明確な目的意識を持つことが大切です。

【その2】 一人で進めようとせず、仲間を作る

- 役員等の中から賛同者を作ります。
(メンバーの候補)
 - ・ 副組合長等
 - ・ 営農組織が別にある場合は、営農組織の長
 - ・ 集落内で発言力のあるキーパーソン
- 具体化していく段階では、検討チームを作ります。
- 関係機関・団体に、活用可能な施策や進め方などを相談します。



【その3】 冷静に進める

- 集落の人は、あまり変化は望まないもので、思うようには進みません。
- 反対意見にムキにならず、その場は耳を傾け、後日、反対者の本音を聞き、根回しを行うようにします。